

IHE報告

新規IHE実装施設と既存実装2施設との比較 ～リビジョンアップによる影響は～

日本IHE協会

- 山田 修 (岡崎市民病院)
- 清水 一範 (放射線医学研究所
重粒子医科学センター病院)
- 福重 二三男 (富士通株式会社)



ポイント

検査現場での

“安心”、“安全”

をより簡単に手に入れられるようになった。

実装施設 1

岡崎市民病院 (愛知県岡崎市)

【施設概要】

「3次救命救急センターを併設する地域中核病院」

- ・病床数 650床
- ・外来患者数 1400人／日

【システム概要】

- ・電子カルテを中心とした病院統合情報システム。
- ・放射線業務、生理検査業務、検体検査業務にIHE-Jを適用
15ベンダからなるマルチベンダの採用

実装施設 2

放射線医学研究所

重粒子医科学センター病院（千葉県千葉市）

【施設概要】

「難治性の悪性腫瘍に対する
重粒子線治療に特化した治療機関」

- ・病床数 100床
- ・外来患者数 100人／日

【システム概要】

- ・ITI-infrastructureを利用した複数システム間の情報連携を実現。
- ・相互運用性を実現することにより電子カルテと密接に結びついた臨床データベースを構築。

新規稼働施設

富士通病院（旧 富士通川崎病院）

（神奈川県川崎市）

【施設概要】

「企業が経営する病院だが、グループ企業従業員だけでなく地域医療も見据えた医療施設」

- ・病床数 46床
- ・外来患者数 200人／日、健診 130人／日

【システム概要】

- ・複数システム間での情報連携を図り、効率的運用を実現する。
- ・業界標準を推進する方針に従い、いち早く自施設で適応しモデルユーザとする。

臨床検査関連での比較

	岡崎市民病院	放医研	富士通病院
実装範囲	検体検査 微生物検査 ¹⁾ 生理検査	検体検査 微生物検査 ¹⁾	検体検査 生理検査
HIS	日立製作所	富士通	富士通
検体検査	エアント [®] ティ	富士通 ²⁾	富士通
生理検査	コニカミルタMG	HIS機能を使用	富士通
検体検査 項目コード	JLAC10	JLAC10	JLAC10

1) 依頼、到着のみ対応

2) 微生物検査は富士通山口情報

変わった部分 その1

LIR (Laboratory Information Reconciliation)
「臨床検査における患者情報の整合性確保」

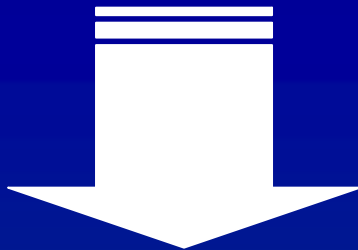
問題点

- ・LIRは臨床検査個別の扱い
- ・他に同様の機能を目指すプロファイルが存在
⇒ トラブル防止のためにも管理方法の統一が必要

変わった部分 その1

臨床検査部門単体のプロフィール

LIR (Laboratory Information Reconciliation)
「臨床検査における患者情報の整合性確保」



IHEの各部門共通のITIプロフィール

PAM (Patient Administration Management)
「患者登録管理」

変わった部分 その1

LIR = IHE Radiology が基本。
(トランザクションRAD1、RAD12を使用)
= HL7 ver2.3

PAM = HL7 ver2.5

臨床検査でIHEを実装するために、HL7の2つのバージョンを参照する必要が無くなった！

変わった部分 その2

JLAC10コード(MEDIS-DC:臨床検査マスター)

- ・「運用コード表」を削除し「まとめ表」を公開。
- ・「15桁コード表」に加え「17桁コード表」を追加。
- ・コード表に「標準検査名称」を追加。
- ・参考データとして「単位」を追加。
- ・ユーザ利用ツールの公開

など

JLAC10コード管理

岡崎市民病院

放医研、富士通病院

Seq	項目変換タイプ	上位コード1			
1	01				
2	02				
3	04	3A010	0000	271	01
4	05	3A010	0000	271	
5	06	600001			

JLAC10入力エリア

院内 約1000項目

放医研 院内約280項目
富士通病院 院内約220項目

通 信

	岡崎Hp	放医研	富士通病院
依頼送信: HIS→LIS	17桁 注)	15桁	15桁
到着通知: LIS→HIS	17桁	15桁	15桁
結果送信: LIS→HIS	17桁	17桁	17桁

注) LIS側でのデータ参照は15桁

JLAC10コードの構造

分析物:5桁	識別:4桁	材料:3桁	測定法:3桁	結果識別:2桁
--------	-------	-------	--------	---------

15桁

17桁

考 察

- TFがリビジョンアップされてもシステム連携に影響は無い。
- PAMの実装で横展開が可能に。
- 最新のJLAC10も、初めての導入時は面倒？
- IHE以前にJLAC10の知名度アップが必要。

まとめ

“安心”＝皆が使って確認済み。
(患者情報連携が他システムと統一)

“安全”＝皆の内容と一緒に。
(手作業でのコード付けが減った。)

IHEはマルチベンダのためだけではない。



ご清聴ありがとうございました。

【演題番号22】 IHEを利用した採血管準備システムの構築

【演題番号23】 IHE報告：新規IHE実装施設と既存実装2施設との比較
～リビジョンアップによる影響は～

【演題番号24】 IHE報告：IHE-Jコネクタソン2008報告
～細菌検査と臨床検査におけるPOCT検査～

【演題番号25】 IHE報告：海外でのIHE普及について
～IHE臨床検査の海外動向と日本の役割～